

デンタルタイムズ

ニユースレター



第25号

編集者 東雲 那津子

古代インフラント

お久しぶりです。

エジプト旅行記(16号)

以来、久々に

新聞編集に抜擢

された那津子です。

今回も、海外旅行好きな

私のインターナショナルな

日々を報告いたします。

2012年3月、長い

冬がようやくくおわり

かけたころ、仕事で

疲れた身体を癒しに

日本を抜け出し



一路メキシコへ飛びました。

そこで私を待っていたのは、

紀元3世紀〜16世紀まで

続いた古代マヤ文明です。

エジプトでは、

ミイラの歯の

魔耗にびっく

りたけど、

マヤの遺跡を訪れて、

またまた、

ちよろろろビツワリ...

なんと、古代マヤ人の歯には、

削って詰め物がしてあるので

す。しかも、無数の

エメラルドが

上下左右の歯に

ちりばめられて



歯がずぎ...

おたしはミ行です...

いるではありませんか！

どうやって削って

どうやって

接着して

あるのか？

ジロジロ見て

いると、ガイドさんか

「上手に神経の手前で止めて

いるんですよ」

と説明してくれて、

ひたすら感心する私。

はたしてマヤの長い

歴史の中で、その技術が

いつごろ確立した

のかは不明ですが、

マヤ文明が滅びた

のが日本の戦国



①



本物の
タコスタ!!



タコスタ!!

時代の頃ですから、
びっくりとししか
言いようが

ありません。

「マヤにも、神技の

カリヌ又歯科医師が

いたのかしら？」と……

帰国後、開口一番に

「先生、すごいのよ！」

と報告したら……

即答で「当たり前だろ！ それ

以上は、痛くて削れねえよ！」

と言われ、妙に納得する私。



「さうに先生は

「これって

間違った審美

歯科だから、



ほ？

俺には関係ねえな！」と

笑い飛ばしなからも、

興味深そうに、

いつまでも、

写真を見続けて

いました。

そんな先生に

「でも先生、

マヤ遺跡から発掘された

遺骨の中にインプラントを

しているのがあるから、

あぐくないですか？」

と強気で言う

「まあ、成功

しているかどうかは別だよ。」

と言いつ返されてしまい、また

も反撃の機会を失う私。



「確かに、死後に行ったもの

が大部分らしいけど、

真偽は古代の

マヤ人のみが

知るのか……？」

などと考えるのは

みたものの

なんだか悔しくて

ネットでマヤのインプラント

について調べていると

あったんです。

生前オペの

インプラント

成功例が……！

その遺骨は、

今はハーバード大学に

保管されているらしいのです。



ハーバード？

(2)

歴史上、最初の

インプラント

成功例は、

紀元600年

ごろとのことで

さらに驚きですね。

でも、相当痛かったに

違いありません。

もしも、私がマヤ歯科医院に

勤務していたら・・・

きっとインプラントの

オペの手伝いを

するのではなく、

若松の勤務中と

同じように、

皆さんに正しい

方法で歯磨きを

きれい=しましよ♡



604年

冠位十二階

十七条憲法

聖徳太子
です。



一日。以和為貴、
無忤為宗。……

することと、

定期的な

クリーニングを

勧めて、

インプラントに

ならないように

伝えていると思います。

今も昔も、やっぱり

自分の歯が一番ですよね？！

そんなこんなで、

しばらくすると、

スウェーデン

衛生士会会長の

イボンヌさんが

若松を視察に来ました。

その時、スウェーデンの



Hi
イボンヌさん
ニはちはへ



3ヶ月

インプラントの

成功率は、

実感として80%

と言っていました。

一方、日本インプラント学会

は、95%の成功率と

言っています。

インプラントに

関しては、歴史も

技術も、日本より

上のスウェーデンで

20%がインプラント周囲炎

になっているのに、なぜ日本

の失敗率は、たったの

5%なのでしょいか？

院長は、インプラントをやっ

ている先生は、自分の成功例



95%

③



80%



しか言わないからなあ...

現に、インプラントを

他院で入れた多くの

患者さんが、

若松に泣きついて

きているだろ！

とホソツと言いました

確かに、自分の歯より

手入れが大変になるはずの

インプラントの予後管理を

ちやんと出来ない医院や

経営を優先させて

無理やりインプラントを

入れている症例が目立

つ様な気がします。

術前にもっと

『本当のリスク』



を知るべきだ

と思ひますし、

何よりも

インプラントを

第一選択にしないことが

大切だと思うのです。

若松では、インプラントは

やっていませんが、やって

いないからこそ、ご自身の

歯を大切に考えています。

そして、本当に必要なとき

は、大学の上手な先生に

直接紹介してあります。

そんな毎日ですので、

多忙な日々が続く、再び

国外へ逃亡したくなる

私なのです。



「今度は、マヤ文明を根絶し

たスペインでも行こう！」

と、思い立ったが吉日

「せんせううえ♡

あのうらお♡♡♡

「なんだ、またどっか

行きたいのか？」

「ちやんと

戻ってこいよ！」

「ハイワール」の二つ返事で

9月のバルセロナへ！

そこで私を待っていたものは、

おいしい料理とエスパーニャ

(スペイン人)達の不思議な

国民性？でした。

詳しくは、また今度...

文||東雲那津子 絵||植竹美和子



サウラダファミリア

